

第1章 事業の概要

1. 市民討議会とは

日本での市民討議会は、ドイツの市民参加の手法である「プラーヌクスツェレ」を参考にして2005年に社団法人東京青年会議所の主催により、東京都千代田区で初めて開催されました。

プラーヌクスツェレとは、ドイツのペーター・C・ディーネル教授が1970年代に考案し、ドイツで広く実施されている市民参加の手法です。プラーヌクスツェレには以下の特徴があります。

- ・参加者は無作為で抽出する（住民基本台帳等を利用）。
- ・有償で一定期間参加する（標準4日間）。
- ・中立的独立機関が実施機関となりプログラムを決定する。
- ・原則25名で構成される。
- ・専門家（利害関係者の場合もあり）から情報提供を受ける。
- ・毎回メンバーチェンジをしながら、約5人の小グループで討議を行う。
- ・「市民答申」という形で報告書を作成し、参加した市民が正式な形で委託者に渡す。

日本で行われている市民討議会は、プラーヌクスツェレを参考にしながら、それをよりコンパクトにした新しい市民参加の手法です。

協働の理念に基づき、各地方自治体においては様々な場面で住民の声を取り入れる機会が設けられておりますが、参加する市民が一部の方に限られているのが現状です。

本来であれば、年齢や性別、職種など分け隔てなく、幅広く声を聞くことが理想ですが、仕事や家庭等の事情で参加できないという方も多くいらっしゃいます。

市民討議会は、無作為抽出・有償性といった特徴から、これまで行政に声を届ける機会の少なかったサイレントマジョリティ（声なき声）と言われる一般市民の参加を促し、その声を行政に届ける目的で行われているものです。

2. いしかりまちづくりディスカッション2013について

（1）目的

今後の地域経営は、人口減少社会の中で持続可能なまちづくりを行う必要があります。そのためにも、より多くの市民が地域の公共に携わり、地域における市民的公共圏を醸成していくことが求められています。

この「いしかりまちづくりディスカッション2013」では、「市民討議会」の手法を用いて、無作為抽出された市民とまちの将来像について共に考えていくことにより、より多くの市民が地域の公共に携わっていく新たな仕組みづくりを試行するとともに、出された意見やアイデアを次期総合計画の策定作業や個別施策の検討等、今後のまちづくりに活かしていくことを目的として実施いたしました。

(2) 開催までの経緯

① 事前協議など

本事業は、石狩市内では初の試みとなる「市民討議会」の手法を用い、青年会議所と行政との協働事業として実施されました。

石狩市では、平成20年4月に施行された「石狩市自治基本条例」に基づき、“市民が主役のまちづくり”を目指すために、市との協働によるまちづくりの活動を市民が提案する協働事業提案制度が行われており、本事業は平成24年度事業として採択されたものです。

また、本事業の実施にあたっては、公益社団法人日本青年会議所で発行している『市民討議会 運営マニュアル2012』を参考にさせていただくとともに、同様の事業を行っていた一般社団法人千歳青年会議所の取り組みから多くのご教示をいただきました。

なお、本事業は、平成27年度中のスタートを目指して策定作業中の「第5期総合計画」の策定作業の一環として位置付けられています。

② 石狩青年会議所5月例会（地域創造委員会担当）

石狩青年会議所内で本事業を担当している地域創造委員会と、石狩市企画経済部企画課との間で、運営イメージや問題点を把握・共有するとともに、青年会議所メンバーが今後の地域経営における課題を認識するため、平成25年5月16日に石狩商工会館において、石狩青年会議所5月例会を開催しました。

本例会では、今後の石狩市における人口推移の将来予想と、その結果考えられる影響についての情報提供を受けた後、小グループに分かれた討議によって対応策を検討していくという、市民討議会と類似の会議運営手法により、参加者全員が事業運営のイメージを共有いたしました。



治田理事長あいさつ



討議風景

③ 各種団体討議会「いしかり地域討議会」

・開催の目的・経緯

先行して同様の事業を行っていた一般社団法人千歳青年会議所の取り組みを参考として、当初の予定にはなかった各種団体討議会「いしかり地域討議会」を開催いたしました。

この「いしかり地域討議会」では、市内関係団体の皆様をお招きし、市民討議会「いしかりまちづくりディスカッション2013」と同様の手法によって討議を行うことにより、①各種審議会など、従来の市民参加手法による参加者層に近い各種団体による討議会と、無作為抽出された一般市民による討議会との比較検証を行うこと、②市内各方面の方々に、新しい討議手法を体験していただき、本事業の意義をPRすること、③本番に近い討議会運営を実践することにより、運営面での問題点の把握に努めること等を目的としました。

〈実施概要〉

・日時 平成25年7月18日（木） 19:00～21:00

・会場 石狩商工会館 3F大ホール

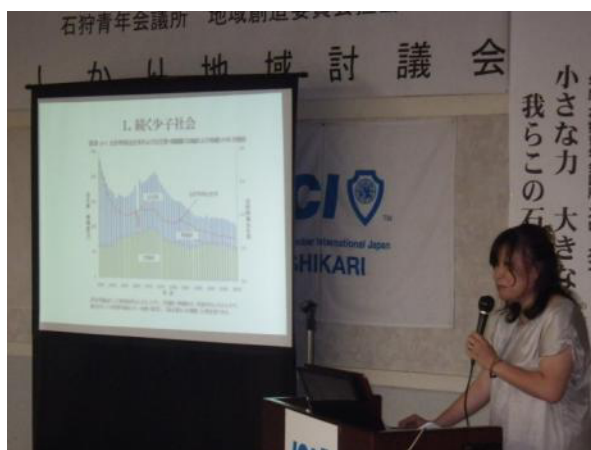
・プログラム

- | |
|--|
| 1. 開会 |
| 2. 主催者あいさつ 石狩青年会議所 理事長 治田智也 |
| 3. 趣旨説明 |
| 4. 話し合いテーマ「住みたい街、住み続けたい街」 |
| ○情報提供1「石狩市の人口動態」—社人研予想から見る今後の石狩—
石狩市企画経済部企画課プロジェクト担当課長 佐々木大樹氏 |
| ○情報提供2「街をとりまく環境」—暮らしと子育ての視点から—
藤女子大学人間生活学部保育学科教授 木脇奈智子氏 |
| ○グループ討議・まとめ |
| ○発表・投票 |
| 5. 問題点についてのアンケート記入 |
| 6. 担当副理事長謝辞 石狩青年会議所 副理事長 中林義雄 |
| 7. 閉会 |

・参加状況

（敬称略）

グループ	団体名	役職	氏名	グループ	団体名	役職	氏名
A	石狩商工会議所	政策検討委員長	池田 篤司	D	公益財団法人 石狩市体育協会	常務理事	藤田 隆
	石狩商工会議所青年部	会長	角川 幸治		石狩消費者協会	会長	二上 朋子
	いしかり市民カレッジ	運営委員長	山田 治己		石狩市行政改革懇話会	委員	永山 隆繁
B	一般社団法人 石狩観光協会	専務理事	吉田 保雄		石狩商工会議所青年部	副会長	永岡 勇
	石狩市農業協同組合	専務理事	中村 武史		イコロの会	幹事長	藤沢 和恵
	石狩商工会議所青年部	専務理事	山本 浩二	E	石狩商工会議所	専務理事	二社谷康治
	NPO法人 ひとまちつなぎ石狩	理事長	羽田美智代		石狩商工会議所青年部	部員	内海 太郎
	石狩市子ども会育成連絡協議会	副会長	尾田 和彦		民生委員児童委員連合協議会	副会長	築田 敏彦
C	NPO法人 石狩市文化協会	副会長	五十嵐満行	F	石狩商工会議所女性会	会長	酒井志津子
	石狩商工会議所青年部	部員	家守 実伸		石狩市農業協同組合青年部	部長	雉子谷辰也
	石狩市農業協同組合青年部	副部長	小林 卓也		石狩市社会福祉協議会	常務理事	伊藤 清
	石狩市子ども会育成連絡協議会	会長	米倉 清隆		石狩市小中学校校長会	会長	阿部 千里
	厚田区地域協議会	会長	佐藤 勝彦				



情報提供



討議風景

〈話し合いの結果〉

・グループ別のまとめ

グループ	順位	まとめの意見	票数
A	①	寺子屋教室 ～若者支援	11
	②	若者目線の地域コミュニティの場づくり ～人と人のつながり	6
	③	市民参加の企業訪問 ～企業を知ってもらおう	2
	残	保育料の支援、「お手てつないで」など ～子育てしやすい街	1
B	①	高齢者サロン ～空き家を有効活用	8
	②	石狩ドーム ～街のシンボル、スローガン、未来に向けて夢を創る	5
	③	一般市民の声を聴く会をJC主導で沢山やる ～多数の一般市民の声を拾い上げることが大切	4
	残		
C	①	石狩鍋を食べて、よその街で自慢しよう ～石狩の個性、魅力をアピール	11
	②	石狩には文化が育っていない ～おじいちゃん・おばあちゃんが、子ども達に伝統芸能を伝えていく	8
	③	ススキノに行かなくても完結できる街 ～街コン開催など、いろいろな人と飲んで横の繋がりを創る	7
	残		
D	①	文化の街、文化の香り高い街	15
	②	子育てに優しい街、若者が住みやすい街、少子高齢化、何より子どもを産むこと ～子どもが増えるほど、その家庭が裕福になる仕組み	12
	③		
	残	障がいを持っている人に優しい街でありたい	1

E	①	中心核となるような駅 ～コミュニティバス、モノレールで交通利便性UP	9
	②	新港を中心とした街 ～海があることを生かす、元気な街	4
	③	人と人との繋がりを生かした街	1
	残	特色ある教育（スポーツ、英語、IT・金融など）、小中高大で一貫・連携した教育	2
F	①	親が安心して子育てできる環境づくり	6
	②	地域のネットワークづくり、大人の居場所	4
	③	地元を再発見する取り組み	4
	残	子どもが故郷と思い生活していける町	4

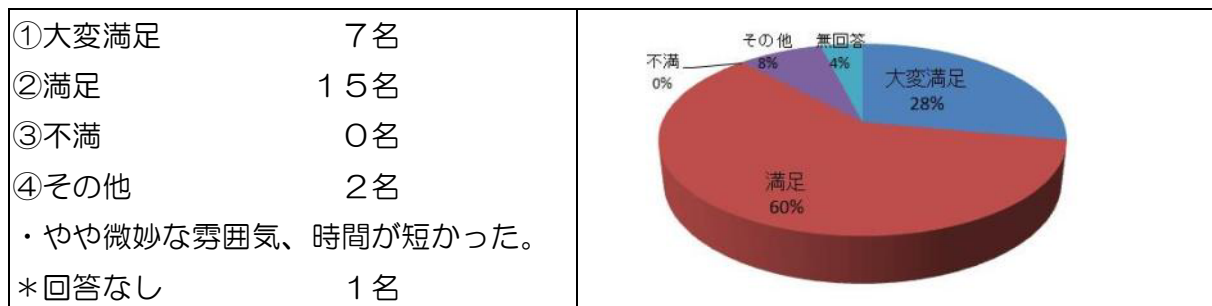
・意見の分類と得票率

意見の分類		グループ	得票	計	得票率
1. 地域の特色と資源を活用したまちづくり					
文化の街、文化の香り高い街	D	15	61	49%	
石狩鍋を食べて、よその街で自慢しよう	C	11			
高齢者サロン　～空き家を有効活用	B	8			
石狩には文化が育っていない　～子供たちに伝統芸能を	C	8			
新港を中心とした街	E	4			
地域のネットワークづくり、大人の居場所	F	4			
地元を再発見する取り組み	F	4			
子どもが故郷と思い生活していける町	F	4			
市民参加の企業訪問	A	2			
人と人との繋がりを生かした街	E	1			
2. 子育てしやすいまちづくり					
子育てに優しい街　～子どもが増えるほど、裕福に	D	12	19	15%	
親が安心して子育てできる環境づくり	F	6			
保育料の支援、「お手てつないで」など	A	1			
2. 若者を応援するまちづくり					
寺子屋教室　～若者支援	A	11	19	15%	
若者目線の地域コミュニティの場づくり	A	6			
特色ある教育、小中高大で一貫・連携した教育	E	2			
4. まちの顔、目玉づくりを					
中心核となるような駅　～コミュニティバス、モノレール	E	9	14	11%	
石狩ドーム　～まちのシンボルを	B	5			
5. イベントで盛り上げるまちづくり					
ススキノに行かなくても完結できる街	C	7	11	9%	
一般市民の声を聴く会をたくさん	B	4			
○ その他					
障がいを持っている人に優しい街	D	1	1	1%	
合　　　　　　　計			125	125	100%

*端数処理のため、合計値は100%にならない場合があります。

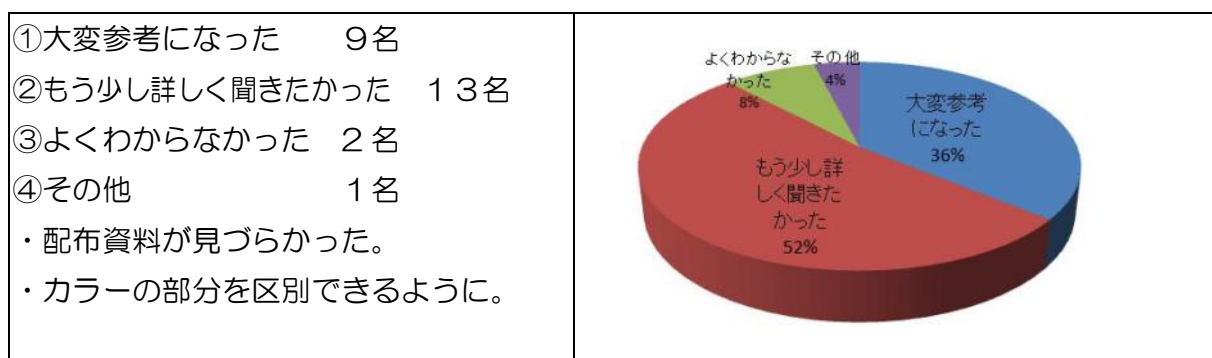
〈参加者アンケート〉 ～出席者 26 名中、有効回答数 25 件、回答率 96.2%

Q1. 「いしかり地域討議会」に参加された感想をお聞かせください。



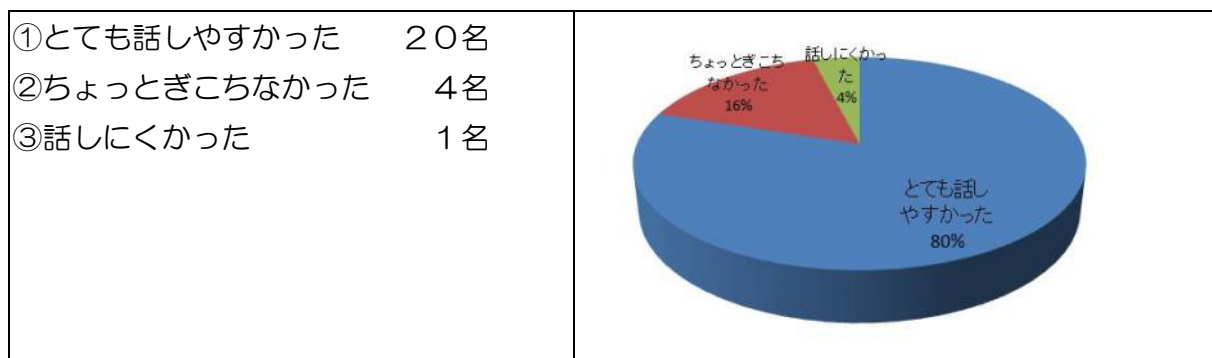
・9割近くの参加者から、「満足」以上の好回答を得ています。

Q2. 情報提供について



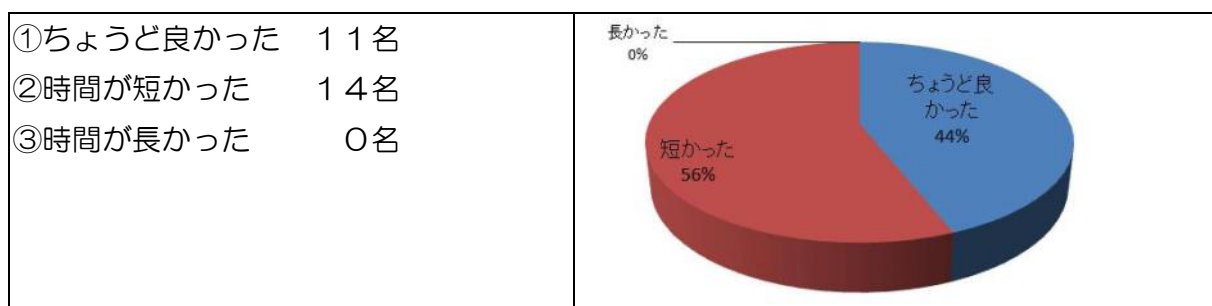
・今回、行政と専門研究者の方からいただいた情報提供については、1/3 が大変参考になったとするとともに、約半数の方がもう少し詳しく聞きたいとの意見がありました。グループ討議の基調となる情報提供に対する関心が伺われます。

Q3. 話し合いの雰囲気について



・今回は、多くの参加者が話しやすい討議環境であったとしています。まちづくりディスカッションでは、こういった討議会に初めて参加するという方も予想されることから、この「話し合いの雰囲気づくり」は非常に大切であると考えられます。

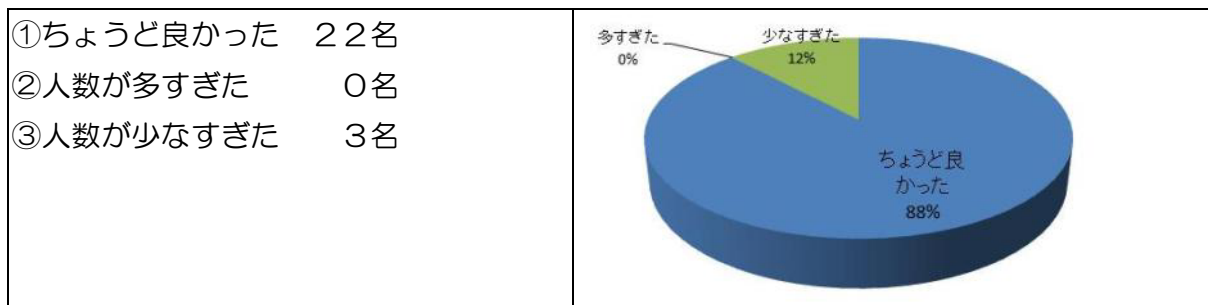
Q4. 話し合いの時間について



・2時間の討議会進行のうち、実質的なグループ討議は概ね1時間程度に限られたことも

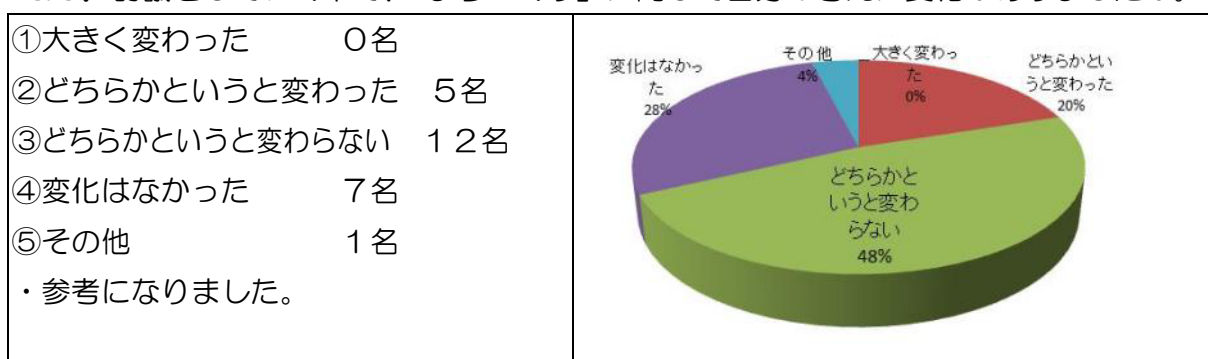
あり、「短かった」が「ちょうど良い」とする意見を上回っています。

Q5. 一テーブルあたりの話し合いの人数について



・若干「少なすぎる」という意見が見られますが、一テーブル5名を基本として事前にグループ設定したものの、当日の欠席等により2テーブルが3名グループとなってしまったことによるものと推察します。

Q6. 討議をしていく中で、「まちづくり」に関して自分の考えに変化がありましたか。



・まちづくりに対する心境変化の面では、多くの参加者が「変わらない」としています。これは、今回の参加メンバーが、既に普段所属している団体の活動を通じて、高い意識を持っているということの現れと推察します。

Q7. 今後の「まちづくり」に関して、話し合った方がいいと思う討議テーマ

(主な意見)

- ・高齢化と若者
- ・文化の香りがするまちづくり
- ・市内観光事業について討議が大事と思う
- ・街のイメージ作り（例えば、教育環境指向 or のんびり自然指向）
- ・石狩に住む若者を増やすには、これから子どもを育てる世代に家を建ててもらうにはどうしたらよいか
- ・寺子屋
- ・自然のエネルギー利用、世代間交流の場
- ・子育て支援、住民自治、地域の文化再発見
- ・市町村合併の検証
- ・若者の働ける場所づくり、環境づくり
- ・本日の発表区分ごとに、提案型の討議会をもっと時間をかけてやってはどうか
- ・分野を絞って、具体的な話し合いにつながればよいと思う。例えば石狩市内の高齢者（独居）起業

Q8. その他気づいた点

(主な意見)

- ・ 女性の数が少ない。
- ・ 参加者の偏りが目立っていたので、考慮した方が良い。
- ・ 若者主体にしてもらいたい。(若者の異業種との交わりが必要と思う。)
- ・ 今回はメンバーがよりすぐりだったので大成功かと思うが、無作為抽出だとスムーズにいくか心配。
- ・ コミュニティには、おせっかい焼きと頭の柔らかい人、歯車を潤滑に回せる人が必要だと思います。こういう場が小さくとも大きくともあると良いと思う。
- ・ もう少し、事前に話し合う時間があってもよい
- ・ このような会議を広く、多くの参加者を対象として開催して頂きたい。
- ・ 事業の中身の事前説明が必要ではないか。
- ・ 若者のみの討議会をやってみるのも良いと思います。
- ・ 前段が長すぎる
- ・ 全体の時間が短かった